

## 随處作主

## 甲西高等学校

甲西高校の部旗に書かれている、大変品格のある文字は「随處（ずいしょ）に主（しゅ）と作（な）る」と読みます。

この字は、甲西高校の乙須教頭先生の高校時代の剣道の恩師、鹿児島商業高等学校剣道部師範、範士八段吉村正純先生の揮毫のものです。

また、この言葉は、中国の唐時代後半に活躍した臨済義玄（りんざいぎけん 蚌群～867）という禅僧の残した言葉です。

臨済禅師の語録「臨済録」は禅僧にとっての重要なテキストとなり、禅師の教えを引き継ぐ人たちによって臨済禅師を宗祖とする臨済宗が興りました。

この臨済録に「随處に主と作れば、立處皆真（りっしょみなしん）なり」という言葉があります。「何處にいても常に主人公であるという気持ちを忘れるな。そうすれば自分のいるところ何處であっても真理が見えてくる」という意味です。

ここに言う「主人公」とは、たくさんいる脇役の中でわがままに振る舞う人間のことではありません。どんな場所でもどんな状況でも、常に自分から進んで行動をとる、主体性のある人のことです。稽古の前後に道場を雑巾がけするのは、先輩からいわれたり、先生に叱られるからするのではなく、床を磨いただけ自分を磨くことができるということを信じて自発的に行動のできる人のことです。チーム全体がスランプになったときに、他人に責任転嫁するのではなく、自分に何ができるかを進んで考えることのできる人です。

こんな主人公がたくさんいるチームは、剣道が強だけでなく、立派な人材を次々と生み出していくに違いありません。

この字を書かれた吉村先生は乙須先生らに「決して井の中の蛙になるなよ」と仰ったそうです。「何處にいても主人公という気概をもって、様々な場所に出かけて自分を磨いてきなさい」という意味で仰ったと私は解釈しています。

（平成20年10月30日滋賀県高等学校秋季総合体育大会剣道大会開会挨拶より）